

体重が減ったら要注意 死亡率、体重増より高く

2009年4月23日 提供：共同通信社

成人後に体重が増えた人よりも、減った人の方が死亡率が高いとの研究結果を、厚生労働省研究班（主任研究者・津金昌一郎（つがね・しょういちろう）国立がんセンター予防研究部長）が23日、発表した。

研究は岩手、秋田、長野など10都府県の40-69歳の男女約9万人を対象に、20歳の時からの体重が（1）5キロ以上減少（2）5キロ以上増加（3）変わらない（増減の幅が5キロ未満）の3グループに分類。約13年間追跡調査し、体重の増減と死亡との関連を調べた。

男性では体重が減った人は、変わらなかった人に比べ1.4倍総死亡率が高く、逆に体重が増えた人の死亡率は低かった。50、60代で体重が減った人は、がんや循環器疾患による死亡率が高くなっていた。

女性でも、体重が減った人は、変わらなかった人に比べ総死亡率が1.3倍高かったが、がん、循環器疾患による死亡と体重減の関連はみられなかった。

調査した斉藤功（さいとう・いさお）愛媛大准教授（公衆衛生学）は「成人後には体重が増えるのが一般的なので、体重が減った人は、何らかの健康障害が背景に隠れていると考えられる。体重が減っている人は自分の健康管理に注意が必要だ」と話している。

M3.com より